

申請者	診療部	石崎 恵子
No.46	強度行動障害を伴う動く重症心身障害児・者の医療モデル構築に関する研究	
研究の概要	<p>(1)目的 重症心身障害児・者の内、国立病院・療養所で「強度行動障害を含むいわゆる動く重心児・者」の治療・療育が開始されて30年以上が経過している。しかし、動く重心児・者の定義、法的位置付けとともにその原因、状態像、療育、行動障害に対する治療、経過及び予後研究は不十分である。この研究は「強度行動障害を含むいわゆる動く重心児・者」の医療モデルの構築(病態・障害概念の明確化と有効な治療方法の確立、的確で十分な医療の提供をするために不可欠である政策的位置づけの提唱)を目的とするものである。具体的には薬物療法(特に自閉症スペクトラムとの関連)について、実態調査とそれに基づく個別症例の分析・前方視的研究を行い、「行動障害を持つ重度・最重度精神遅滞児(者)の薬物療法」についてのガイドラインを提唱する。また本研究を通して、昨年度までの研究で作成した「強度行動障害を持つ重度精神遅滞児・者の医領度判定基準案」における各項目・評価ガイドラインについての見直し・補足を行っていく。研究にあたっては国立病院機構傘下で動く重症児病棟を有する施設9施設で協力して行う。</p> <p>(2)対象及び方法 対象:国立病院機構9施設(花巻病院、北陸病院、さいがた病院、小諸高原病院、松籟荘、賀茂精神医療センター、肥前精神医療センター、菊池病院、琉球病院)の「動く重心児・者病棟」に入院中の症例 方法: 1)上記対象者についてアンケート調査を行う。 ①薬物選択についての担当医の意見(自閉症スペクトラム合併・非合併、身体合併症の別による) ②後方視的調査による薬物療法有効例、副作用出現例のデータ収集・分析 2)肥前精神医療センター「動く重心児・者病棟」入院症例についての症例報告～後方視的。または前方視的に個別の薬物療法の検討を行う。</p>	
判定	承認	